

視点(1881)

## 戦後3回目の流通大変革と変革要因とは(その1) !!

(流通経済編)

経済は50年に1回、**流通は25年に1回**、企業コンセプト(SCコンセプト)は8年に1回、MDingは3年に1回、商品構成は3ヶ月に1回、過去の延長線上ではない概念で変化します。この中で、25年に1回の流通の大変革を示すと次の通りです。

	年 度	変化のキーポイント
第1次 流通革命	1970年 (1945年から 25年目)	①所得1万ドル時代による中産階級層の出現 ②車の保有率50%による車社会の到来 ③戦後生まれの団塊世代の社会進出によるライフスタイル革命(昭和ニューファミリー) ④人口大移動時代の到来
第2次 流通革命	1995年 (1970年から 25年目)	①旧大店法緩和による自由競争社会の到来 ②買物の学習経験の終焉によるポストモダン消費時代の到来 ③団塊ジュニアの社会進出によるライフスタイル革命(平成ニューファミリー) ④デフレ経済時代の到来
第3次 流通革命	2020年 (1995年から 25年目)	①戦後3回目の世代交代によるライフスタイル革命 ②ネット販売・Eコマースによる買場革命 ③地球環境と人間関係を重視した流通革命 ④ニューモダン消費の消費革命

2020年を概念的境目とした「流通大革命」をもう一步踏み込んだ「メガトレンド」は次の7つです(六車流：流通・マーケティング理論)。

### (1) 第1のメガトレンド「金融経済化」

アメリカは1971年にドルの金本位制を廃止し、そしてドルの基軸貨幣のポジショニングを確保しつつ、世界の金融資本の中心センターとして君臨してきました。アメリカの経済は完全に金融経済化し、金融資本とICT産業が一体化(IPO)し、また金融と不動産産業が一体化(デリバティブ)してバブルの発生と崩壊をくり返しながら成長(1991年から2008年のリーマンショックまで2倍のGDP)してきました。日本もアメリカのリーマンショック後の超金融緩和に6年半遅れ、2013年4月よりアベノミクスにのっとり日銀は異次元の金融緩和政策(資金供給量135兆円を270兆円あるいは300兆円まで拡大)を行いました。この異常な金融緩和は結果的には元通りの状態に戻さなければハイパーインフレになります。日本の金融緩和の出口戦略は、2017年4月の消費税引き上げの後から始まり、8年から10年の期間が必要といわれています。それゆえに日本の金融緩和状態は2025~2027年、場合によっては2030年まで続くことが想定されます。それゆえに日本の金融経済化は加速され、金融システムを基軸とした経済体制が当分続くこととなります。

その結果、流通業界には次のような影響が occurs。

#### ① 脱・デフレあるいはディスインフレ

原則的に適正な経済発展をするためには毎年2%の物価高が必要です。モダン消費の終焉(モノ離れ以後の経済)は需給ギャップがマイナスになるため、デフレ経済となりますが、金融経済化により脱・インフレになり上質志向が高まります。

#### ② 投下資本回転が変化

小売業基軸の投下資本回転率は2.0回転、不動産基軸の投下資本回転率は1.5回転ですが、金融経済下の投資家基軸の投下資本回転率は1.0回転が基軸となり投下資本の回収計算が希薄化します。

#### ③ 事業の成果が利益からキャッシュフロー

通常の実業の成果は利益(例えばROE)ですが、金融経済となるとファンドはキャッシュフローあるいはEBDA(税引前、金利支払前、減価償却前)や返済資源前となり、また小売業や不動産業の使用価値から交換価値のウェイトが高くなり投資家の利回り志向となります。

#### ④ SCの所有と経営(所有)分離

小売業や不動産業の基軸の時代は、所有と経営は一体化していますが、金融経済の時代となると、ファンドによる所有とPMによる経営(運営)となります。

### (2) 第2のメガトレンド「ニューモダン消費化」

アメリカは1970年にモノ離れ現象が起こり、1976年からポストモダン消費、2001年からニューモダン消費の時代に突入しています。日本は1988年にモノ離れ現象が起こり、1991年からポストモダン消費、2011年からニューモダン消費時代に突入しています。

経済は、産業中心経済(軽工業と重化学工業)から金融経済へと進化(?)します。産業中心経済から金融中心経済の間にモノ離れ現象が起こり、消費の性格が物欲主義から精神満足主義に変化します。これがニューモダン消費経済であり、「従来とは異なるニーズに基づく消費」で、今までなかったニーズ、あるいは存在はしていたが切り口を変えたニーズを「21世紀というフィルター」を通したニーズの消費です。

(流通とSC・私の視点 1882へ続く)

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup>

代 表 者 むら 六 車 秀 之